No.328

公民館通信
2026.11

たのしいまち

「まなび」と「であい」のひろばである公民館から
さまざまな拠点へと広がる「つながり」を発信

「表現することが好き」



演劇フェスティバル実行委員長
松本（まつもと） 仁也（じんや） さん

表情が目まぐるしく変わる。へぇ～俳優さんてこんな感じなんだ･･･お話を聞きながら表情やしぐさを追い続ける楽しい取材が始まった。

1989年に始まった多摩演劇フェスティバル。その実行委員長を6年前より務める。所属する『不等辺さんかく劇団』では、脚本・演出を担当。役者としても様々な役を演じ分けている。

多摩演劇フェスティバルを「一つのコミュニティのようだ」と表現。祭りのような催しだった発足当時とは異なり、現在では参加10劇団の中から希望する劇団が1年を通じてリレー形式で公演を行っている。時期が重ならないため、互いの演劇を鑑賞し、時に出演や音響、さらに脚本でも他劇団と協力し合う。切磋琢磨しつつお互い成長し合う仲間となり、劇団同士の「横の繋がりを生み出す、日本中見たことがない仕組み」と絶賛された。

『不等辺さんかく劇団』に加わったのは大学3年のとき。本番1か月前に、高校の同級生から声がかかった。発声から練習を始め何とか本番を終えたものの…初舞台を何も覚えていない。でも終わると寂しくて、半年後正式に入団した。大学卒業後は公務員となり、八王子市の学童に長く勤めた。「子供のエキス」を吸って、元気いっぱい。「ガキ大将のような」職員だったらしい。

脚本を書いたきっかけは、前任者がプロに転向したこと。ところが、初めて書いた演劇がお客様に受け大当たり。役者を見て脚本が生まれる「エンジニア」タイプなのだとか。得意のイラストでも腕前を発揮。今回の『パペッツハート』ポスターには、かわいいキャラが勢ぞろいする。「表現」に集中したくて職場を辞し、現在は専業主夫。次はどんな「表現」が湧き出すのだろう？

ひと♡ネットワーク

編集：たのしいまち編集委員
発行：多摩市立永山公民館　〒206-0025　多摩市永山1-5　042(337)6661 FAX 042(337)6003
多摩市立関戸公民館　〒206-0011　多摩市関戸4-72　042(374)9711 FAX 042(339)0491

人がつながる

演劇フェスティバル「たまには芝居」について知りたい！



ABOUT

演じる人も、観る人も、市民

1989年9月に始まった「多摩演劇フェスティバル（愛称：たまには芝居）」は、多摩地域を拠点とする10のアマチュア市民劇団が参加する演劇の祭典です。当初はまとまった時期に開催されていましたが、現在は1年間を通してリレー形式で公演をつなぎ、地域に暮らす人々へ年間を通じて演劇を楽しんでいただく機会を届けています。







POINT

多摩市のゆるやかなつながり

「たまには芝居」の特徴は、劇団同士の温かな協力関係です。ある時は舞台に立ち、ある時は受付を手伝い、客席からステージを楽しむ。お互いを支え合いながら盛り上げていく、そんな多摩市ならではのつながりです。



劇団紹介

市民劇場TAMA

1984年から多摩市で活動している市民劇団です。2024年には結成40周年を迎えました。

劇団ドラマ館

「心にぽっと、
あかりが灯る。
そんな芝居を作りたい。」

不等辺さんかく劇団

壮大なスケールと小ワザの効いたステージ。ドタバタSFファンタジーエンタメをあなたに！

劇団 March Wind

初期はシェイクスピアの戯曲を上演。近年は、江戸川乱歩の小説を舞台化、会話劇にも挑戦中！

カカワクワディーゴ

芝居公演のほか展示やワークショップなどの活動も行っています。

お芝居の工房 ちゃとらん

子どもから大人まで楽しめる芝居を！
ファンタジックなお芝居を創りたいな。

帝京大学演劇部 ヴィクセンズシアター

大学生の今しかできないことを全力で！公演ごとにカラーが変わる作品を、ぜひお楽しみください。

劇団古田工務店

毎回「笑い」にこだわりながら、オリジナル喜劇を上演し続けてきた劇団です。

TAGWEAP

学生を中心とした団体で、殺陣がメインの演劇です！毎年３月頃に定期公演を行っています。

劇団つくしんぼ

全年齢向けのオリジナル時代劇アクションショーを企画しています。お楽しみに！

NEXT

市民劇場TAMA「焼き芋の背くらべ」

2027年 1月 9日(土) 18:00
1月10日(日) 13:00 / 16:30

内容：焼き芋長屋を舞台にしたコメディータッチの物語

会場：ヴィータ・ホール

～公民館事業レポ～

初心者のためのスマホサロン

～スマホでつながる遠くの家族と近くの友達～



スマホの使い方を教えてもらえるサロンがあると聞きつけた。やった♪　疑問がいっぱいあるんだ。いろいろ教えてほしい。しかし人気が高くて、事前予約はいつもすぐ満席。今回も定員オーバー。ダメ元で当日受付を狙ったら、運よく１席確保できた。よし！　自分の番号が呼ばれるのを待つ。

部屋の中には６ブース分の机が置いてあり、年配の男性、女性、若い女性が２人ずつぐらい講師席に座り、参加者を待つ。参加者は聞きたいことを効率よく質問し、講師のボランティアスタッフはそれに次々答えて行く。30分たったら次の人と交代。

私も困っていることを６項目ほどメモに書き出し、ワクワク待っていると「お次、５番の方～」いよいよ私の番だ。着席すると、目の前には若い、にこやかな感じのいい女性（大学生ボランティア）がいる。ギガのこと、失ったラインの戻し方(これは無理だった！)、本体の写真を消さずにGoogle　Photoの写真だけを消すやり方…等々、限られた時間の中、精一杯、質問を並べ立てた。

驚いたのが、この講師、何を聞いてもすぐ答えてくれる。必要ならご自身の携帯電話で検索し、そこに出て来た長～い文章を読んでたちどころに理解し、かみ砕いて私に説明してくれる。天才だ！　疑問が解決して助かるだけではなく、日常でも「そうか、こういうふうにすれば、解決につながるのか」と、アプローチの仕方もわかるので、とても勉強になるのだ。さすが若い講師、頭の回転も早くて、私の苦手なAI機器をちゃんと使いこなしていらっしゃる。しかも、参加者が満足そうに帰って行く姿を見て、達成感、充実感を感じるそうなのだ。ありがたすぎる。私もこの現代社会に生まれ落ちたからには、もう少し機器に慣れ親しんで、文明の利器の恩恵を被ってもバチは当たらないよな～と思い知らされた一日であった。

講師の皆様、お疲れさまでした。次回は12月18日(金)関戸公民館にて。ご興味ある方は、ぜひぜひ訪れてほしい。ためになること、間違いなし！

◎サークル紹介（関戸）

「ＡＩ勉強会」



「AIなんて難しそう」――そう思っていた77歳の主宰が、ChatGPTに出会って人生が変わったことがきっかけで始まった勉強会です。パソコンやスマホの経験がなくても大丈夫。おひとりおひとりのペースに合わせて、AIの基本から、生活や趣味に役立てる使い方まで、一緒に学んでいます。月1回、関戸公民館・永山公民館で開催。難しい専門用語は使わず、「へえ、こんなことができるんだ」という驚きと発見を大切にしています。日本テレビの取材を受けたことも。
見学・体験参加も歓迎です。

◆日時　　月1回(原則月曜開催)
◆場所　　関戸公民館・永山公民館
◆連絡先　多摩AI勉強会　飯塚博
tama.ai.study@gmail.com　070-2241-0819



コラム え・と・せ・と・ら

公民館の募集BOXとQRフォームに寄せられた、「公民館・多摩市の好きなところ」をご紹介します。素敵なメッセージをありがとうございました★

◆ ペンネーム「多摩市民です」さん 20代以下

『多摩市民は神（☆v☆）』

自然豊かなところが大好きです！公園たくさんあるし、都会過ぎずちょうどいい！便利なところもたくさんあって神（☆v☆）

公民館は学生が集まってお話できるのが本当にありがたいです。青春をありがとう!!!!

◆ ペンネーム「Tamako」さん 20代以下

『図書館と共に♡』



公民館の多くは図書館と併設されたところが多いので、借りた本を読んでいます。

◆ ペンネーム「土方歳三」さん 20代以下

私は公民館のサークル活動室を利用することがあります。そこはいつもきれいに保たれていてとても気持ちがいいです。また近くで経営しているカフェのコーヒーは絶品で何時間でも居たいと思います。



◆ ペンネーム「モチモチの旅人」さん20代以下

『小さな居場所』

私はつい先日に公民館に入らせて頂くことがあり、そこでとてもきれいだと思う場所を発見しました。「茶室」です。茶室までの道のりは段々和の世界へと変わっていき、いざ入ってみると小石が敷き詰められた地面に竹で作られた扉や窓、小さくかわいらしくて落ち着く、まるで秘密基地のような空間でした。そのときは長居することはできませんでしたが、もしまた行けるときがありましたら、そこでのんびりとお茶を楽しみたい、そう思える空間でした。

編集後記

☆(あ)食欲の秋！食欲をセーブしたい！

☆(愛)芸術の秋！演フェス記事に感化されて演劇鑑賞欲が…

☆(楽)両つま先が痛いなと思い始めて1ヶ月。爪の端が肉に刺さって、傷から菌が。腫れ上がった肉を切開してウミを出す。麻酔の注射を指にブスッ。ぎゃー。痛かったら言ってね、注射足すから。いやいや、死んでも足しません！ずっとサンダル生活。トホホ。

☆(月)お名前を幾度か聞いていたじんやさん。お会いするや、目線と表情に釘付けになり、お話の「間」にも引き込まれた。メモではなく、お顔から目が離せない取材になった…

↑ カラー版はこちらから